

ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学的再構築のための 総括とプログラム

Bilan-programme pour la reconstruction pédagogique de la théorie systémique de Deleuze-Guattari

森田 裕之 *Hiroyuki Morita*

(人間発達学部教養部会)

1. 教育学の批判のもとに「教育とは何か」と問う

1853年に牧師の子として生まれたゴッホ (Vincent van Gogh) は中等学校中退後、さまざまな職を転々とした末、27歳のときに画家になる決心をする。そうすると、ゴッホは巨匠たちの作品を丹念に粘り強く繰り返し模倣することによって絵画を学んでいく。この既存の作品の模倣によって試行錯誤を重ねていた凡庸な画家が1888年2月、パリから南フランスのアルルに赴き、そこで突如として『ひまわり』『星月夜』『カラスのいる麦畑』といった瞠目すべき絵画を描き上げることができる狂気に憑かれた画家に、つまり単なる模倣を脱して独自の様式に達するのとひきかえに社会から狂人として疎まれるようになった真の意味での画家になる。この人間ゴッホが狂人＝芸術家ゴッホになるときの変容は、われわれに馴染みの発達として捉えることのできない得体の知れぬ謎の変容である。しかしながら、ゴッホは発達によってはじめて人間ゴッホになったのだから、この謎の変容と発達との間には内在的なつながりがあるのは明白だ。

こうした発達を基礎概念とするのは教育学である。近代教育学の淵源とされるコメニウス (Johann Amos Comenius) から幾多の教育学者や思想家を経て今に至るまで、教育学はたしかに多様に形を変えてきたが、しかし教育とは子どもを人間に発達させることをいうのだという教育観がこのような変化を越え貫いてきた。したがって、一般に教育学とはこのような発達を基調とした教育観を第一原理とした理論体系であると考えることができる。このとき、教育学は、発達があの謎の変容と内在的に関係しているにもかかわらずその変容を自身の研究対象の外に置き、それを問うことがない。このことは教育学の問題点を示しているといえる。

そこで、本稿ではこうした問題点を孕んでいる点で教育学を全面的に批判し、「教育とは何か」と改めて問い、教育を定義し直すことを試みる。このとき、教育学が主題化することを避ける謎の変容を「生成」と呼び、それを理論的な水準の下で考え抜いたドゥルーズ＝ガタリ (Gilles Deleuze/Pierre-Félix Guattari) の議論に依拠することにしたい。

2. 教育への問いに答える予備的作業としてのドゥルーズ＝ガタリのシステム論の再構成

『アンチ・オイディプス』『千のプラトール』『哲学とは何か』という諸著作の中で展開されたドゥルーズ＝ガタリの議論を素材としてシステム論を構成し組み立てることができる。このシステム論は《自然を創造的な肯定的運動として捉える自然理論》と《社会を四つの異なった創造的な肯定的運動による相互作用として捉える社会理論》とからなり、後者が前者に基づいている理論体系であり、この創造的な肯定的運動はベルクソン (Henri-Louis Bergson) とニーチェ (Friedrich Wilhelm Nietzsche) の思想の中にその思想的原型を見出すことができる運動である。そして、こうしたシステム論は対立を原動力とする否定的運動の論理であるヘーゲル (Georg Wilhelm Friedrich Hegel) の弁証法を、それが創造的な肯定的運動の論理の転倒した虚像であり誤謬論理であるとして完膚なきまでに批判するのである。本稿では、このように自然と社会とを包括的に説明することができるドゥルーズ＝ガタリのシステム論を信頼すべき準拠枠として、自然と社会とそれらに依拠した教育とに関わるシステム論を構築し、この自然・社会・教育理論をよりどころとして、上で定立された教育への問いに理論的に答えることにしたい。

だが、自然・社会・教育理論の構築は一足飛びになされるものではなく、ある一定の予備的作業を経由しなければならない。その予備的作業とは自然・社会・教育理論の基礎理論を造形することである。より具体的にいえば、それはドゥルーズ＝ガタリのシステム論の理論的基盤をなす自然理論とそれに基づいた社会理論とをそれぞれ、《高所・表層・深層》という三次元的な座標系の下に再構成することによって、ドゥルーズ＝ガタリのシステム論を立体的で重層的に再構成することだ。ドゥルーズ＝ガタリの自然理論は、自然を《表層・深層》の中で繰り広げられている諸微粒子の自己運動として捉える自然理論として再構成することができる。このように再構成される自然理論を土台としたドゥルーズ＝ガタリ社会理論は、社会を《高所・表層・深層》の中で展開されている四つの異なった諸記号の運動による相互作用として捉える社会理論として再構成することができる。この四つの諸記号の運動はそれぞれ、超越的な専制君主によって支配された帝国社会、専制君主という絶対的な権力をもたず多数の首長によって支配された未開社会、専制君主の桎梏から自由になった自治都市、帝国社会にも自治都市にも属さない遊牧民として具象化することになると考えられる。

このようにして、再構成されたドゥルーズ＝ガタリのシステム論が得られる。このシステム論は自然と社会についてのシステム論だから、「自然・社会理論」と呼ぶことにする。ドゥルーズ＝ガタリのシステム論が教育の本質について思考するとき足場として機能する自然・社会・教育理論の原理論であるのに対して、この自然・社会理論は自然・社会・教育理論を作り上げるための基礎理論になるのだ。

3. 予備的作業の成果である自然・社会理論を生成と流動の教育学へ発展させる

自然 - 社会理論は上に見た構築の仕方から明らかなように、空間的な広がりをもった無時間的な理論である。この時間を欠いた自然 - 社会理論という三次元的な空間的理論に対して時間という第四の次元を与え、その理論を時間軸に沿って展開していくことによって、自然 - 社会 - 教育理論という四次元的な時空間的理論が構築されることになる。以下、その構築を試みてみよう。

マルクス (Karl Heinrich Marx) とそれに依拠するドゥルーズ＝ガタリに従えば、《帝国社会として具象化する諸記号の運動》と《自治都市として具象化する諸記号の運動》とは、《資本主義として具象化する新しい諸記号の運動》へと時間の流れに沿って発展していく。この理論的水準における発展は現実の歴史的事実に符合し、それによって裏打ちされているのであり、資本主義というのは先行する諸々の社会形態を前提条件として時間をかけ通時的に誕生してくるのだ。

とりわけ『アンチ・オイディプス』の中で展開された資本主義と分裂症の理論によれば、この新しい諸記号の運動の成立に伴って、一部の諸記号がその運動から逸脱し諸微粒子になるという。この新しい諸記号の運動としての社会の外部をなす諸微粒子は「狂気」と呼ぶことができ、この狂気は多数多様な諸記号に解釈することができる多義的なものだから「芸術」と呼ぶことができる。ドゥルーズ＝ガタリは言及していないが、この狂気＝芸術という超記号的な諸微粒子の誕生と運動して、そこから分節化によって諸記号が立ち現れるような原記号的な未分化の連続体が誕生することになると考えられる。新しい諸記号の運動としての社会のもう一つの外部をなす連続体は、諸記号に先立つのだから「子ども」と呼ぶことができる。フーコー (Michel Foucault) とアリエス (Philippe Ariès) がそう示したように、狂気＝芸術も子どもも時間的な流れの中で誕生した存在なのである。

ここで、理論の全体を眺望することを可能にするマップを作成するために、位相という新たな枠組みを導入してみよう。記号を基準として原記号＝連続体的位相、記号的位相、超記号＝微粒子的位相という三位相を区別することができる。原記号＝連続体的位相の中には子どもがあり、記号的位相の中には《未開社会として具象化する諸記号の運動》と《遊牧民として具象化する諸記号の運動》と《資本主義として具象化する新しい諸記号の運動》とがあり、超記号＝微粒子的位相の中には自然と狂気＝芸術がある。そして、個々の位相は、高所と表層と深層という三階層に分かれている。だから例えば、諸微粒子の自己運動としての自然は、超記号＝微粒子的位相の中の《表層・深層》の中で展開しているのである。以上のような三位相から構成された理論的マップに基づいて考えるとき、様々な学問領域に多大な影響を与えている有力な三つの変容論理に対応して、位相間の変容の三つのタイプを理論化することができる。

変容論理として何をおいてもまずヘーゲルの弁証法を挙げなくてはならない。意識が労働を介して絶対知へと高まる運動の論理であるこの弁証法を思想的原型とする位相間変容は、記号的位相における新しい諸記号の運動が、原記号＝連続体的位相における子どもを

新しい諸記号の運動の中に組み込まれた諸記号に発達させる変容であると考えられる。この新しい諸記号の運動の中に組み込まれた諸記号は、子どもに対して「人間」と呼ぶことができる。このとき、《子どもを人間に発達させる変容》は「教育」と呼ぶことができ、本稿ではこの教育に「発達としての教育」という名を与えよう。

ヘーゲルの弁証法とは異質な変容論理としてニーチェの価値転換の論理を挙げることができる。人間が超人に生成する運動の論理であるこの価値転換の論理を思想的原型とする位相間変容は、記号的位相における新しい諸記号の運動の中の一部の諸記号が、超記号＝微粒子的位相における狂気＝芸術に生成する変容であると考えられる。この新しい諸記号の運動の中の一部の諸記号は、狂気＝芸術に対して「人間」と呼ぶことができる。この《人間が狂気＝芸術に生成する変容》の歴史的現れの一つが、先に見た人間ゴッホが狂人＝芸術家ゴッホになる変容であり、このことを別言すれば人間ゴッホが狂人＝芸術家ゴッホになる変容を理論的に純化することで、それは《人間が狂気＝芸術に生成する変容》に帰着するということになる。こうした変容は教育＝《子どもを人間に発達させる変容》とは異なった別の変容であるので、この教育とは別の教育として捉えることが可能である。この別の教育を「生成としての教育」と名づけることにしたい。

バタイユ (Georges Bataille) はヘーゲルの弁証法を徹底的に推し進めることで、それを留保なきヘーゲル主義という変容論理へと転位させる。生が死を経て再生する運動であるこの留保なきヘーゲル主義を思想的原型とする位相間変容は、記号的位相における新しい諸記号の運動の中の諸記号が、原記号＝連続体的位相における子どもに変貌することを經由して記号的位相の中に新しく再生することであると考えられる。この新しい諸記号の運動の中の諸記号は、子どもに対して「人間」と呼ぶことができるのであり、人間も子どもと狂気＝芸術と平行に、時間の流れの中で生まれるのだ。新しい諸記号の運動が自己同一性を維持したままで行われる日常的で生産的な労働として具象化するのに対して、この《人間が子どもを經由して再生する変容》は非日常的で非生産的な遊びを通して別の自己として生まれ変わる変容として具象化することになる。こうした変容は教育＝《人間が狂気に生成する変容》とは異なった別の変容なので、この教育とは別の教育として捉えることができ、この別の教育に「再生としての教育」という名を授けることにする。

以上の論述によって、《原記号＝連続体的位相・記号的位相・超記号＝微粒子的位相という三つの位相》と《発達としての教育・生成としての教育・再生としての教育という三つの位相間変容》とから構成された理論、つまり自然・社会・教育理論が築き上げられる。本稿では紙幅の制限から詳しい説明を展開できないが、この理論は位相間変容の一つである生成と位相内変容である流動とが機軸となった理論なので、それを「生成と流動の教育学」と呼ぶことにしたい。理論的水準で人間に関わる変容を発達と生成と再生という三つの変容として多元的に捉えるこの生成と流動の教育学は、発達という概念によって一元的に支えられた既存の教育学とは、すなわち先において全面的に批判された既存の教育学と

は完全に断絶しており、それにとって代わり得る新しい教育学なのである。

4. 生成と流動の教育学に基づいて教育への問いに答える

生成と流動の教育学において、発達としての教育と生成としての教育と再生としての教育のそれぞれの思想的原型はお互いに異なっているため、三つの教育は相互に次元を異にしている。この次元を共有しない三項はそれにもかかわらず、三つの位相間変容として相互に緊密に関係し合い絡み合っていると考えられる。要するに、どの二つの輪も連結することなく部分的に重なり合っていることで三つの輪が不可分となった特異な構造をもって、ポロメオの結び目のように、この三項は相互に異なった多次元のまま関わり合っていることによって、奇跡的にも一つの立体的な全体性を形成しているのだ。このことを考慮に入れるならば、本稿の冒頭で定立された教育への問いに対して、教育とは《多次元＝一者》を形成している発達としての教育と生成としての教育と再生としての教育のことをいうのだという解答を与えることができる。

生成と流動の教育学に依拠することによって、このような新しい教育観が打ち立てられると、われわれの現実の見方は一変する。発達を基調とした教育観は、われわれが目にする《人間に関わる現実の変容》を「発達」と呼ばれるにすぎない平板な風景として構成していた。ところが今や、新しい教育観によって、《人間に関わる現実の変容》は《多次元＝一者》としての立体的な風景として組織され、多次元はそれぞれ「発達」「生成」「再生」と呼ばれることになる。人間ゴッホが狂人＝芸術家ゴッホになるときの謎の変容は、この立体的な風景の中で発達と関係し合い再生と関わり合った生成として捉えられるのだ。

引用参考文献一覧

- 浅田彰 1983『構造と力—記号論を超えて』勁草書房
 浅田彰 1986 (1984)『逃走論』筑摩書房
 市倉宏祐 1986『現代フランス思想への誘い』岩波書店
 市倉宏祐・伊吹克己・菊地健三 1994『ジル・ドゥルーズの試み』北樹出版
 今井康雄 2004『メディアの教育学—「教育」の再定義のために』東京大学出版会
 宇野邦一編 1994『ドゥルーズ横断』河出書房新社
 宇野邦一 2001『ドゥルーズ—流動の哲学』講談社
 梅根悟 1968-1969『西洋教育思想史』全3巻、誠文堂新光社
 江川隆男 2003『存在と差異』知泉書館
 大石紀一郎ほか編 1995『ニーチェ事典』弘文堂
 大田堯ほか編 1979-1980『岩波講座 子どもの発達と教育』全8巻、岩波書店
 小笠原道雄 2008「教育学とはどのような学問か」小笠原道雄・森川直・坂越正樹編『教育学概論』福村出版
 片山勝茂 2009「教育概念は教育哲学会でどのように論じられてきたか—「教育とは何か」をめぐる」教育哲学会『教育哲学研究の現在・過去・未来』教育哲学研究 100号記念特別号

- 柄谷行人 1988 (1980)『日本近代文学の起源』講談社
萱野稔人 2005『国家とはなにか』以文社
木田元 1993『ハイデガールの思想』岩波書店
木田元 2000 (1995)『反哲学史』講談社
木田元 2000『ハイデガー『存在と時間』の構築』岩波書店
小泉義之 2000『ドゥルーズの哲学—生命・自然・未来のために』講談社
小泉義之・鈴木泉・檜垣立哉編 2008『ドゥルーズ／ガタリの現在』平凡社
澤野雅樹 2009『ドゥルーズを「活用」する!』彩流社
篠原助市 1949 (1929)『理論的教育学』協同出版
篠原助市 1972 (1950)『欧州教育思想史』上・下、玉川大学出版部
篠原資明 1997『ドゥルーズ—ノマドロジー』講談社
杉村昌昭・三脇康生・村澤真保呂編 2000『精神の管理社会をどう超えるか?—制度論的精神療法の現場から』松籟社
多賀茂・三脇康生編 2008『医療環境を変える—「制度を使った精神療法」の実践と思想』京都大学学術出版会
蓮實重彦 1995 (1978)『フーコー・ドゥルーズ・デリダ』河出書房新社
檜垣立哉 2002『ドゥルーズ—解けない問いを生きる』日本放送出版協会
檜垣立哉 2009『ドゥルーズ入門』筑摩書房
檜垣立哉 2010『瞬間と永遠—ジル・ドゥルーズの時間論』岩波書店
二見史郎 2010『ファン・ゴッホ評伝』みすず書房
船木亨 1994『ドゥルーズ』清水書院
堀尾輝久 1971『現代教育の思想と構造』岩波書店
堀尾輝久 1984『子どもを見なおす』岩波書店
堀尾輝久 1991『人間形成と教育』岩波書店
松本潤一郎・大山載吉 2005『ドゥルーズ—生成変化のサブマリン』白水社
丸山圭三郎 1981『ソシユールの思想』岩波書店
丸山圭三郎 1984『文化のフェティシズム』勁草書房
三島憲一 1987『ニーチェ』岩波書店
宮寺晃夫 2009「教育の概念規定のあり方—規範主義と事実主義の相反」教育哲学会『教育哲学研究の現在・過去・未来』教育哲学研究 100 号記念特別号
三脇康生・岡田敬司・佐藤学編 2003『学校教育を変える制度論—教育の現場と精神医療が真に出会うために』万葉舎
森昭 1961『教育人間学』黎明書房
森田伸子 1993『テキストの子ども—ディスクール・レシ・イマージュ』世織書房
森田伸子 1996「「子ども」から「インファンシ infans」へ—変貌するまなざし」井上俊ほか編『岩波講座 現代社会学』12 子どもと教育の社会学、岩波書店
森田伸子 2001「ポストモダニズムとインファンシ」増渕幸男・森田尚人編『現代教育学の地平』南窓社
森田伸子 2009「ルソー」今井康雄編『教育思想史』有斐閣
森田尚人 1994「発達観の歴史的構成」森田尚人ほか編『教育学年報 3—教育のなかの政治』世織書房
森田尚人 1995「近代教育学における発達概念の系譜—思想史研究へのひとつの方法論的視角」近代教育思想史研究会『近代教育フォーラム』第 4 号
矢野智司 1995『子どもという思想』玉川大学出版部

- 矢野智司 1996『ソクラテスのダブル・バインド—意味生成の教育人間学』世織書房
- 矢野智司 2000『自己変容という物語—生成・贈与・教育』金子書房
- 矢野智司 2002『動物絵本をめぐる冒険—動物・人間学のレッスン』勁草書房
- 矢野智司 2006『意味が躍動する生とは何か—遊ぶ子どもの人間学』世織書房
- 矢野智司 2008『贈与と交換の教育学—漱石、賢治と純粹贈与のレッスン』東京大学出版会
- 矢野智司 2009「教育人間学が自己変容する「限界への教育学」という運動—語ることの不可能性と可能性」
平野正久編著『教育人間学の展開』北樹出版
- 山口昌男 2000 (1975)『文化と両義性』岩波書店
- 山崎高哉 2002『20世紀日本における教育哲学』京都大学大学院教育学研究科『京都大学大学院教育学研究科紀要』第48号
- 山崎高哉 2003『二十世紀日本における教育哲学』山崎高哉編『応答する教育哲学』ナカニシヤ出版
- 芳川泰久・堀千晶 2008『ドゥルーズ キーワード89』せりか書房
- Alliez, Éric, 1996 *Deleuze philosophie virtuelle*, Synthélabo.=2002 長友文史訳「ドゥルーズ、潜在の哲学」『現代思想』8月号第30巻10号、青土社
- Althusser, Louis, 1993 (1964) “Freud et Lacan,” *Écrits sur la psychanalyse:Freud et Lacan*, Éditions STOCK/IMEC.=2001 石田靖夫訳「フロイトとラカン」石田靖夫・小倉孝誠・菅野賢治訳『フロイトとラカン—精神分析論集』人文書院
- Althusser, Louis, 1995 *Sur la reproduction*, Presses Universitaires de France.=2005 西川長夫ほか訳『再生産について—イデオロギーと国家のイデオロギー—諸装置』平凡社
- Ariès, Philippe, 1973 (1960) *L'enfant et la vie familiale sous l'Ancien Régime*, Éditions du Seuil.=1980 杉山光信・杉山恵美子訳『〈子供〉の誕生—アンシャン・レージュム期の子供と家族生活』みすず書房
- Aristotèlès, *Ta Meta Ta Physika*. =1959-1961 出隆訳『形而上学』上・下、岩波書店
- Artaud, Antonin, 1974 (1947) “Dossier de Pour en finir avec le jugement de dieu suivi de Le Théâtre de la Cruauté,” *Œuvres complètes XIII:Van Gogh le suicidé de la société Pour en finir avec le jugement de dieu suivi de Le Théâtre de la Cruauté Lettres à propos de Pour en finir avec le jugement de dieu*, Éditions Gallimard.
- Artaud, Antonin, 1974 (1947) “Van Gogh le suicidé de la société,” *Œuvres complètes XIII:Van Gogh le suicidé de la société Pour en finir avec le jugement de dieu suivi de Le Théâtre de la Cruauté Lettres à propos de Pour en finir avec le jugement de dieu*, Éditions Gallimard.=1997 (1986) 粟津則雄訳「ヴァン・ゴッホ」『ヴァン・ゴッホ』筑摩書房
- Artaud, Antonin, 1974 (1948) “Pour en finir avec le jugement de dieu,” *Œuvres complètes XIII:Van Gogh le suicidé de la société Pour en finir avec le jugement de dieu suivi de Le Théâtre de la Cruauté Lettres à propos de Pour en finir avec le jugement de dieu*, Éditions Gallimard.=2006 (1989) 宇野邦一訳「神の裁きと訣別するため」宇野邦一・鈴木創士訳『神の裁きと訣別するため』河出書房新社
- Badiou, Alain, 1997 *Deleuze:La clameur de l'Être*, Hachette Littératures.=1998 鈴木創士訳『ドゥルーズ—存在の喧騒』河出書房新社
- Balibar, Étienne, 1996 (1965) “Sur les concepts fondamentaux du matérialisme historique,” Althusser, Louis/Balibar, Étienne/Establet, Roger/Macherey, Pierre/Rancière, Jacques, *Lire le Capital*, Presses Universitaires de France.=1982(1974) 神戸仁彦訳「史的唯物論の基本概念について」権寧・神戸仁彦訳『資本論を読む』合同出版

- Bataille, Georges, 1967 (1949) *La part maudite*, Les Éditions de Minuit.=1973 生田耕作訳『呪われた部分』二見書房
- Bergson, Henri-Louis, 1927 (1889) *Essai sur les données immédiates de la conscience*, Presses Universitaires de France.=1990 (1965) 平井啓之訳『時間と自由』白水社
- Bergson, Henri-Louis, 1939 (1896) *Matière et mémoire:Essai sur la relation du corps à l'esprit*, Presses Universitaires de France.=1999 (1965) 田島節夫訳『物質と記憶』白水社
- Bergson, Henri-Louis, 1941 (1907) *L'évolution créatrice*, Presses Universitaires de France.=2001 (1966) 松浪信三郎・高橋允昭訳『創造的進化』白水社
- Bergson, Henri-Louis/Deleuze, Gilles(ed.), 1957 *Mémoire et vie*, Presses Universitaires de France.=1999 前田英樹訳『記憶と生』未知谷
- Bogue, Ronald, 2002 "Gilles Deleuze and Félix Guattari," Bertens, Hans/Natoli,Joseph(eds.), *Postmodernism:The Key Figures*, Blackwell Publishers.=2005 土田知則訳「ジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリ」土田知則ほか訳『キーパーソンで読むポストモダニズム』新曜社
- Bollnow, Otto Friedrich, 1959 *Existenzphilosophie und Pädagogik:Versuch über unetstetige Formen der Erziehung*.=1966 峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』理想社
- Caillois, Roger, 1967 (1958) *Les jeux et les hommes:Le masque et le vertige*, Éditions Gallimard.=1990 (1971) 多田道太郎・塚崎幹夫訳『遊びと人間』講談社
- Charbonnier, Sébastien, 2009 *Deleuze pédagogue:La fonction transcendante de l'apprentissage et du problème*, Éditions L'Harmattan.
- Clastres, Pierre, 1974 *La société contre l'État:Recherches d'anthropologie politique*, Les Éditions de Minuit.=1987 渡辺公三訳『国家に抗する社会』水声社
- Clausewitz, Karl von, 1832 *Vom Kriege*.=2001 (1996) 清水多吉訳『戦争論』上・下、中央公論新社
- Comenius, Johann Amos, 1657 *Didactica Magna*.=1962 鈴木秀勇訳『大教授学』全2巻、明治図書出版
- Cornford, Francis Macdonald, 1932 *Before and After Socrates*, Cambridge University Press.=1995 山田道夫訳『ソクラテス以前以後』岩波書店
- Deleuze, Gilles, 1962 *Nietzsche et la philosophie*, Presses Universitaires de France.=1982 (1974) 足立和浩訳『ニーチェと哲学』国文社、2008 江川隆男訳『ニーチェと哲学』河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 1963 *La philosophie critique de Kant*, Presses Universitaires de France.=1984 中島盛夫訳『カントの批判哲学』法政大学出版局、2008 國分功一郎訳『カントの批判哲学』筑摩書房
- Deleuze, Gilles, 1965 *Nietzsche*, Presses Universitaires de France.=1998 (1985) 湯浅博雄訳『ニーチェ』筑摩書房
- Deleuze, Gilles, 1966 *Le bergsonisme*, Presses Universitaires de France.=1974 宇波彰訳『ベルクソンの哲学』法政大学出版局
- Deleuze, Gilles, 1968a *Différence et répétition*, Presses Universitaires de France.=1992 財津理訳『差異と反復』河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 1968b *Spinoza et le problème de l'expression*, Les Éditions de Minuit.=1991 工藤喜作・小柴康子・小谷晴勇訳『スピノザと表現の問題』法政大学出版局
- Deleuze, Gilles, 1969 *Logique du sens*, Les Éditions de Minuit.=1987 岡田弘・宇波彰訳『意味の論理学』法政大学出版局、2007 小泉義之訳『意味の論理学』河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 1990 (1973) "Lettre à un critique sévère," *Pourparlers:1972-1990*, Les Éditions de Minuit.=2007 (1992) 宮林寛訳「口さがない批評家への手紙」『記号と事件—1972-1990年の対話』河出

- 書房新社
- Deleuze, Gilles, 2002a (1956) "Bergson, 1859-1941," *L'île déserte:Textes et entretiens 1953-1974*, Les Éditions de Minuit.=2003 前田英樹訳「ベルクソン、1859-1941」宇野邦一ほか訳『無人島』全2巻、河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 2002b (1956) "La conception de la différence chez Bergson," *L'île déserte:Textes et entretiens 1953-1974*, Les Éditions de Minuit.=2003 前田英樹訳「ベルクソンにおける差異の概念」宇野邦一ほか訳『無人島』全2巻、河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 2002 (1972) "À quoi reconnaît-on le structuralisme ?," *L'île déserte:Textes et entretiens 1953-1974*, Les Éditions de Minuit.=2003 小泉義之訳「何を構造主義として認めるのか」宇野邦一ほか訳『無人島』全2巻、河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 2002 (1973) "Pensée nomade," *L'île déserte:Textes et entretiens 1953-1974*, Les Éditions de Minuit.=2003 立川健二訳「ノマド的思考」宇野邦一ほか訳『無人島』全2巻、河出書房新社
- Deleuze, Gilles, 2003 (1970) *Spinoza:Philosophie pratique*, Les Éditions de Minuit.=2002 (1994) 鈴木雅大訳『スピノザ—実践の哲学』平凡社
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 1973 (1972) *L'anti-Œdipe:Capitalisme et schizophrénie*, Les Éditions de Minuit.=1986 市倉宏祐訳『アンチ・オイディプス』河出書房新社、2006 宇野邦一訳『アンチ・オイディプス—資本主義と分裂症』上・下、河出書房新社
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 1975 *Kafka:Pour une littérature mineure*, Les Éditions de Minuit.=1978 宇波彰・岩田行一訳『カフカーマイナー文学のために』法政大学出版局
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 1977 *Politique et psychanalyse*, Bibliothèque des Mots Perdus, Editeur.=1994 杉村昌昭訳『政治と精神分析』法政大学出版局
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 1980 *Mille plateaux:Capitalisme et schizophrénie*, Les Éditions de Minuit.=1994 宇野邦一ほか訳『千のプラトー』河出書房新社
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 1990 (1972) "Entretien sur *L'anti-Œdipe*," Deleuze, Gilles, *Pourparlers:1972-1990*, Les Éditions de Minuit.=2007 (1992) 宮林寛訳「フェリックス・ガタリとともに『アンチ・オイディプス』を語る」『記号と事件—1972-1990年の対話』河出書房新社
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 1991 *Qu'est-ce que la philosophie ?*, Les Éditions de Minuit.=1997 財津理訳『哲学とは何か』河出書房新社
- Deleuze, Gilles/Guattari, Pierre-Félix, 2003 (1987) "Préface pour l'édition italienne de *Mille plateaux*," Deleuze, Gilles, *Deux régimes de fous:Textes et entretiens 1975-1995*, Les Éditions de Minuit.=2004 宮林寛訳「『千のプラトー』イタリア語版への序文」宇野邦一ほか訳『狂人の二つの体制』全2巻、河出書房新社
- Derrida, Jacques, 1967 "De l'économie restreinte à l'économie générale:Un hegelianisme sans réserve," *L'écriture et la différence*, Éditions du Seuil.=1977-1983 三好郁朗訳「限定経済学から一般経済学へ—留保なきヘーゲル主義」若桑毅ほか訳『エクリチュールと差異』上・下、法政大学出版局
- Diels, Hermann/Kranz, Walther, 1951-1952 (1903) *Die Fragmente der Vorsokratiker*.=1996-1998 内山勝利編『ソクラテス以前哲学者断片集』全5巻・別巻1、岩波書店
- Durkheim, Émile, 1922 (1911) "L'éducation, sa nature et son rôle," *Éducation et sociologie*, Presses Universitaires de France.=1982 (1976) 佐々木交賢訳「教育の本質と役割」『教育と社会学』誠信書房
- Foucault, Michel, 1972 (1961) *Histoire de la folie à l'âge classique*, Éditions Gallimard.=1975 田村俊訳『狂気の歴史—古典主義時代における』新潮社

- Foucault, Michel, 1975 *Surveiller et punir: Naissance de la prison*, Éditions Gallimard.=1977 田村俣訳『監獄の誕生—監視と処罰』新潮社
- Foucault, Michel, 2001 (1977) "L'œil du pouvoir," *Dits et écrits 1954-1988:II 1976-1988*, Éditions Gallimard.=2000-2002 伊藤晃訳「権力の眼」蓮實重彦・渡辺守章監修『ミシェル・フーコー思考集成』6・7・8・9・10、筑摩書房
- Freud, Sigmund, 1900 *Die Traumdeutung*.=1968 高橋義孝訳『フロイト著作集』2、人文書院
- Freud, Sigmund, 1905 *Drei Abhandlungen zur Sexualtheorie*.=1969 懸田克躬・吉村博次訳「性欲論三篇」懸田克躬ほか訳『フロイト著作集』5、人文書院
- Freud, Sigmund, 1910 "Über einen besonderen Typus der Objektwahl beim Manne: Beiträge zur Psychologie des Liebeslebens I." =1983 高橋義孝訳「『愛情生活の心理学』への諸寄与 1—男性にみられる愛人選択の特殊なタイプについて」高橋義孝ほか訳『フロイト著作集』10、人文書院
- Fröbel, Friedrich Wilhelm August, 1826 *Die Menschenerziehung: die Erziehungs-, Unterrichts- und Lehrkunst, angestrebt in der allgemeinen deutschen Erziehungsanstalt zu Keilhau*.=1964 荒井武訳『人間の教育』上・下、岩波書店
- Gogh, Vincent van, 1911 *Lettres de Vincent van Gogh à Emile Bernard*, A. Vollard.=1978 (1955) 裕伊之助訳『ゴッホの手紙』上、岩波書店
- Gogh, Vincent van, 1953 *Verzamelde brieven van Vincent van Gogh*.=1961-1970 裕伊之助訳『ゴッホの手紙』中・下、岩波書店
- Gogh, Vincent van, 1958 *The Complete letters of Vincent van Gogh*, New York Graphic Society.=1969-1970 小林秀雄・滝口修造・富永惣一監修『ファン・ゴッホ書簡全集』全6巻、みすず書房
- Gogh, Vincent van, 1990 *De brieven van Vincent van Gogh*.=2001 二見史郎編訳・園府寺司訳『ファン・ゴッホの手紙』みすず書房
- Hardt, Michael, 1993 *Gilles Deleuze: An Apprenticeship in Philosophy*, University of Minnesota Press.=1996 田代真ほか訳『ドゥルーズの哲学』法政大学出版局
- Hegel, Georg Wilhelm Friedrich, 1807 *Phänomenologie des Geistes*.=2002 (1971-1979) 金子武蔵訳『精神の現象学』上・下、岩波書店
- Heidegger, Martin, 1947 *Über den 《Humanismus》: Brief an Jean Beaufret, Paris*.=1997 渡邊二郎訳「『ヒューマニズム』について」筑摩書房
- Heidegger, Martin, 1961 *Nietzsche*.=2007 (1976-1977) 藺田宗人訳『ニーチェ』全3巻、白水社
- Heinich, Nathalie, 1991 *La gloire de Van Gogh: Essai d'anthropologie de l'admiration*, Les Éditions de Minuit.=2005 三浦篤訳『ゴッホはなぜゴッホになったのか—芸術の社会学的考察』藤原書店
- Herbart, Johann Friedrich, 1806 *Allgemeine Pädagogik: aus dem Zweck der Erziehung abgeleitet*.=1960 三枝孝弘訳『一般教育学』明治図書出版
- Hjelmlev, Louis, 1943 *Omkring Sprogteoriens Grundlæggelse*.=1985 竹内孝次訳『言語理論の確立をめぐって』岩波書店
- Hofmannsthal, Hugo von, 1907-1908 *Die Briefe des Zurückgekehrten*.=1991 檜山哲彦訳「帰国者の手紙」『チャンドス卿の手紙 他十篇』岩波書店
- Huizinga, Johan, 1938 *Homo Ludens: Proeve eener bepaling van het spel-element der cultuur*.=1973 高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス』中央公論社
- Kafka, Franz, 1917 *Beim Bau der Chinesischen Mauer*.=1987 池内紀編訳「万里の長城」『カフカ短編集』岩波書店

- Kant, Immanuel, 1787 (1781) *Kritik der reinen Vernunft*. =2005 (1966-1973) 原佑訳『純粹理性批判』上・中・下、平凡社
- Kant, Immanuel, 1788 *Kritik der praktischen Vernunft*. =1979 (1918) 波多野精一・宮本和吉・篠田英雄訳『実践理性批判』岩波書店
- Kant, Immanuel, 1790 *Kritik der Urteilkraft*. =1964 篠田英雄訳『判断力批判』上・下、岩波書店
- Kant, Immanuel, 1803 *Über Pädagogik*. =2001 加藤泰史訳「教育学」湯浅正彦・井上義彦・加藤泰史訳『カント全集』17、岩波書店
- Kojève Alexandre, 1968 (1947) *Introduction à la lecture de Hegel*, Éditions Gallimard. =1987 上妻精・今野雅方訳『ヘーゲル読解入門—『精神現象学』を読む』国文社
- Kristeva, Julia, 1974 *La révolution du langage poétique: L'avant-garde à la fin du XIX^e siècle, Lautréamont et Mallarmé*, Éditions du Seuil. =1991-2000 枝川昌雄・原田邦夫・松島征訳『詩的言語の革命』1・3、勁草書房
- Lacan, Jacques, 1966 *Écrits*, Éditions du Seuil. =1972-1981 宮本忠雄ほか訳『エクリ』全3巻、弘文堂
- Lévi-Strauss, Claude, 1950 "Introduction à l'œuvre de Marcel Mauss," Mauss, Marcel, *Sociologie et anthropologie*, Presses Universitaires de France. =1973-1976 伊藤昌司・山口俊夫訳「マルセル・モース 論文集への序文」有地亨・伊藤昌司・山口俊夫訳『社会学と人類学』全2巻、弘文堂
- Lévi-Strauss, Claude, 1962 *La pensée sauvage*, Librairie Plon. =1976 大橋保夫訳『野生の思考』みすず書房
- Lévi-Strauss, Claude, 1996 (1956) "Les organisations dualistes existent-elles ?," *Anthropologie structurale*, Librairie Plon. =1972 生松敬三訳「双分組織は実在するか」荒川幾男ほか訳『構造人類学』みすず書房
- Locke, John, 1989 (1693) *Some Thoughts concerning Education*, Oxford University Press. =1967 服部知文訳『教育に関する考察』岩波書店
- Marx, Karl Heinrich, 1857-1858 *Grundrisse der Kritik der Politischen Ökonomie*. =1958-1965 高木幸二郎監訳『経済学批判要綱』全5巻、大月書店
- Marx, Karl Heinrich, 1867 *Das Kapital I*. =1969 向坂逸郎訳『資本論』1・2・3、岩波書店
- Nietzsche, Friedrich Wilhelm, 1883-1885 *Also sprach Zarathustra*. =1967-1970 氷上英廣訳『ツァラトゥストラはこう言った』上・下、岩波書店
- Nietzsche, Friedrich Wilhelm, 1884-1888 *Dionysos-Dithyramben*. =1994 (1980) 中島義生訳「ディオニュソス頌歌」塚越敏・中島義生訳『ニーチェ書簡集II 詩集』筑摩書房
- Nietzsche, Friedrich Wilhelm, 1886 *Jenseits von Gut und Böse: Vorspiel einer Philosophie der Zukunft*. =1970 木場深定訳『善悪の彼岸』岩波書店
- Nietzsche, Friedrich Wilhelm, 1887 *Zur Genealogie der Moral*. =1964 (1940) 木場深定訳『道徳の系譜』岩波書店
- Nietzsche, Friedrich Wilhelm, 1889 Briefe. =1994 (1980) 塚越敏訳「335 コージマ・ヴァーグナーへ」塚越敏・中島義生訳『ニーチェ書簡集II 詩集』筑摩書房
- Nietzsche, Friedrich Wilhelm, 1901 *Der Wille zur Macht*. =1993 (1980) 原佑訳『権力への意志』上・下、筑摩書房
- Olsson, Liselott Mariett, 2009 *Movement and Experimentation in Young Children's Learning: Deleuze and Guattari in early childhood education*, Routledge.
- Pestalozzi, Johann Heinrich, 1780 *Die Abendstunde eines Einsiedlers*. =1959 長田新訳「隠者の夕暮」長田新編『ペスタロッチー全集』1、平凡社

- Pestalozzi, Johann Heinrich, 1801 *Wie Gertrud ihre Kinder lehrt.*=1960 長田新訳「ゲルトルートはいかにしてその子を教うるか—子供をみずからの手で教育しようとする母親への手引書—書簡形式による一つの試み」長田新編『ペスタロッチー全集』8、平凡社
- Piaget, Jean, 1947 *La psychologie de l'intelligence*, Librairie Arman Colin.=1989 (1960) 波多野完治・滝沢武久訳『知能の心理学』みすず書房
- Piaget, Jean, 1970 *L'épistémologie génétique*, Presses Universitaires de France.=1972 滝沢武久訳『発生的認識論』白水社
- Piaget, Jean/Inhelder, Bärbel, 1966 *La psychologie de l'enfant*, Presses Universitaires de France.=1969 波多野完治・須賀哲夫・周郷博訳『新しい児童心理学』白水社
- Platón, *Politeia.*=1979 藤沢令夫訳『国家』上・下、岩波書店
- Porter, Roy, 2002 *Madness: A Brief History*, Oxford University Press.=2006 田中裕介・鈴木瑞実・内藤あかね訳『狂気』岩波書店
- Postman, Neil, 1994 (1982) *The Disappearance of Childhood*, Vintage Books.=2001 (1985) 小柴一訳『子どもはもういない』新樹社
- Rousseau, Jean-Jacques, 1969 (1762) "Émile ou De l'éducation," *Œuvres complètes IV:Émile Éducation-Morale-Botanique*, Éditions Gallimard.=1962-1964 今野一雄訳『エミール』上・中・下、岩波書店
- Safranski, Rüdiger, 2000 *Nietzsche: Biographie seines Denkens.*=2001 山本尤訳『ニーチェ—その思考の伝記』法政大学出版局
- Saussure, Ferdinand de, 2005 (1916) *Cours de linguistique générale*, Éditions Payot & Rivages.=1972 (1940) 小林英夫訳『一般言語学講義』岩波書店
- Semetsky, Inna, 2006 *Deleuze, Education and Becoming*, Sense Publishers.
- Semetsky, Inna (ed.), 2008 *Nomadic Education: Variations on a Theme by Deleuze and Guattari*, Sense Publishers.

* 本稿は、2011年8月に京都大学に提出された博士学位論文「ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学的再構築—生成と流動の教育学のために」に添付された論文要旨（6000字以内）に、その博士学位論文のなかの引用参考文献一覧を付加したものである。